



世界基準の安心安全都市

セーフコミュニティがごしま

2020年度の国際認証再取得に向けて取組推進中！！

セーフコミュニティとは？

WHO（世界保健機関）が推奨する活動で、根拠に基づき、みなさんの身近に起こっている事故やけがを予防する取組のことで、これまでの地域活動や事業を生かしながら、さまざまな統計データやアンケートなどの分析結果をもとに、地域住民、関係団体、行政が一緒になって、安心安全なまちづくりに向け、より効果的で継続的な活動を推進します。

国際認証取得（2016年1月）と再取得（2020年度）に向けて



【鹿児島市のセーフコミュニティ国際認証取得】

- ・世界で366番目、国内で12番目
- ・人口60万人規模の中核都市としては国内初

【セーフコミュニティ国際認証再取得に向けて】

- ・2019年10月：事前指導
- ・2020年：認証申請書の提出、現地審査

鹿児島市の重点 7分野の取組

交通安全

- 自動車による交通事故減少
- 高齢者・子どもの交通事故減少



参加・体験型の交通安全教室など

学校の安全

- 小中学校の校内等でのけがの減少



小学校での取組（危険）などの表示など

子どもの安全

- 家庭内等での事故・けがの減少
- 子育て中の親への支援



体力・運動能力の向上を目的とした活動など

高齢者の安全

- 高齢者の転倒による外傷の減少
- 虐待や認知症への啓発・理解の促進



転倒予防教室の実施など

DV防止

- DVの正しい理解と気付きの促進
- 若年者に対する予防啓発の充実



DV防止のための情報提供及び啓発など

自殺予防

- 中高年（50～69歳）の自殺者数の減少



ゲートキーパー養成講座の開催など

防災・災害対策

- 桜島地域における避難体制の再構築



避難訓練の強化充実など

取組の成果

【子ども（中学生以下）の交通事故死傷者数】

153人 → 63人
(平成25年) (平成30年)

【取組学校数（小中学校）】

117校 → 126校
(平成25年度) (平成30年度)

【病院の受診等が必要だった園内での児童の事故・けが人数（1団体あたり）】

8.5人 → 4.2人
(平成27年度) (平成30年度)

【認知症サポーター養成講座延べ受講者数（全市）】

32,189人 → 43,990人
(平成27年度) (平成30年度)

【相談先の認知度】

24.4% → 30.8%
(平成25年度) (平成28年度)

【鹿児島市の自殺者数 / 自殺死亡率（人口10万人対）】

111人 / 18.3 → 84人 / 14.1
(平成25年) (平成29年)

【桜島地域における住民一覧表の作成】

1町内会・77人 → 25町内会・4,098人
(平成25年) (平成29年 桜島全町内会)